

学校名 | 県立むこがわ特別支援学校

## 1 ICTを活用した自立活動指導の実際

### (1) 指導期間・指導時数

指導期間は、令和4年9月から12月の4ヶ月であった。

指導時数は、日々の着替え場面の指導（10分程度）で実施した。

### (2) 使用した遠隔システム

Google Work space のアプリケーション（Classroom、Gmail、Meet 等）を使用した。

### (3) 指導目標

#### ○長期目標

「全裸にならずに上の服の着脱と下のズボンの着脱を順番に行うことができる」

#### ○短期目標

「上の服の着脱と下のズボンの着脱を順番に行うことができる」

### (4) 自立活動の区分・項目

○人間関係の形成・他者のかかわりの基礎に関すること

○身体の動き・日常生活に必要な基本的動作に関すること

### (5) 指導内容

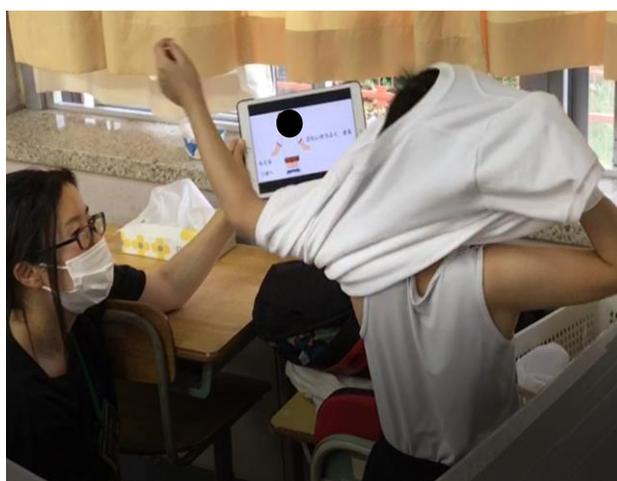
iPad でパワーポイント（keynote）を使用し、アニメーション動画を作成した。アニメのキャラクターには対象児童の顔写真を貼り付けるようにした。アニメーション動画の内容は、まず上の服の着脱があり、直後に好きなキャラクターが登場し、適切な行動（目標）をした後にキャラクターの笑顔と「じょうずに、きれました」という言葉で褒めるようにした（言語賞賛）。次に、下のズボンの着脱があり、同様に褒めるアニメーションとした。

### (6) 指導の手立て

まず最初に、対象児童に対して適切な着替えの手順を示したアニメーション動画を提示した。アニメーションを提示する際は、iPad による本指導場面が対象児童にとって慣れるまでは、担任の教師が操作するようにした。見通しを持って慣れてきたら、対象児童が自分で iPad をタッチ（指でスライドさせる）してアニメーションを動かせるようにした。iPad を操作しながら一つ一つの動作（行動）を指導していくようにした。実際に着替えをする際、対象児童の動きが止まったり、不適切な行動（シャツを脱いだ後に、続けてズボンを脱ごうとする）が生じたときは、教師が手で静止したり、次の行動を指差ししたり、「まだだよ」「体操服着ようね」等の声かけをしたりして修正するようにした。

### (7) 指導上の工夫

第1回授業検討会（オンライン）の指導助言を取り入れた。衣服の上下をすぐに脱いでしまうことが、対象児童にとって一連の動作となっていた。各着替えの動作については数字（番号）を振って、一つ一つの動作を別々に指導する必要があった。そのため、①上の服を脱ぐ、②体操服を着る、③ズボンを脱ぐ、④体操ズボンを履く、というように数字をアニメーション動画の中に盛り込んだ。さらに、アニメーションの途中に、対象児童が着替えている様子動画（上の服を脱いで着る、下のズボンを脱いで履く）を差し込むようにした。



### (8) 校内の指導体制

学級の担任は3名体制であった。対象児童の指導場面では、教師1名が必ず付いて指導した。アニメーション動画を使用した指導の初期段階においては、本研究の主指導である1名の担任教師が実際に指導を行った。毎週、3名の教師が指導する児童のペアを替えていたために、本主指導の教師が他の2名の教師に今回の指導内容を伝えたり、記録として撮影していた実際の指導場面の動画を見せたりした。

### (9) 関係機関との連携（在籍校・保護者・医療・福祉等）

知的障害や発達障害が専門で、ICTの研究をしている外部専門家（大学教授）から指導及び助言を受けた。第1回目は、本校の全教職員向けに講義を実施してもらった。講義の内容は、学校現場で利活用できるICT機器の紹介と、その効果的な利活用の仕方を具体的に説明してもらった。第2回目と第3回目は、具体的な事例についてオンラインでの授業検討会を実施し、指導内容について助言を受けた。オンラインはGoogle Work spaceのアプリであるGoogle Meetを使用して行った。事前に本研究のGoogle Classroomを作成し、Classroomの中にある資料が保存できるDriveに授業検討会で使用する中間報告資料やアニメーション動画、指導場面の記録動画をアップロードするようにした。

保護者には、本研究の主指導者である学級担任から指導の趣旨について事前

に説明した。また、指導の後半から「全裸にならずに衣服の着脱ができた」動画を Google の Gmail を使って添付し、保護者にも子どもの様子を見てもらった。

## 2 成果と課題

|  |  |
|--|--|
| <p>児童生徒の変容<br/>(指導開始前)</p> <p>対象児童は、元々 iPad に興味を持っていたために、教師が iPad を提示したときに自分の好きな動画を見ようと自分で操作することが多くあった。</p> <p>着替えについては、上の服を脱いだ後、すぐにズボンに手を伸ばして脱ぎ、そのまま下着まで脱いで全裸になっていた。不適切な行動を制止しようとする、怒って奇声を挙げたり、教師を叩いたりすることもあった。</p> | <p>(指導開始後)</p> <p>着替えの指導場面中には、アニメーション動画以外の操作を自分からしようとするとはなくなった。アニメーション動画のスライド (タップ) のみ自分からしたり、教師の指示に従って操作したりするようになった。</p> <p>着替えについては、上の服を脱いだ後、かごの中に入っている体操服を着て、次にズボンを脱いで体操ズボンを履くようになった。下着まで脱いで全裸になることもなくなった。奇声を上げたり、教師を叩いたりすることも減少した。</p> |
|--|--|

成果

本研究の指導の開始当初は、対象児童が iPad を操作しようとするのを制止したり、上の服を脱いだ後、すぐにズボンを脱ごうとするのを制止したりすることが非常に多かった。毎回ではないものの、対象児童の行動を制止するたびに怒って奇声を上げたり、教師を叩いたりすることがあった。しかし、指導助言後、アニメーション動画の着替えの一連の動作に数字 (番号) を付けるようにしたことで、数字の順番に行動することができるようになった。すなわち、①上の服を脱いだら、②体操服を着る、③ズボンを脱いだら、④体操ズボンを履く、ことができるようになった。また、自分が着替える動画をスライドの中に取り入れたことによって、より注視するようになり、次の行動に移りやすくなったと考えられた。指導の後半からは、対象児童の行動を制止したり、指差ししたり声かけしたりすることも激減した。教師の見守りだけで、一人で適切な手順で着替えができるようになった。さらに、不注意傾向もあったため、行動が中断して周りをじっと見ていることも多かったが、今回の指導の結果、着替えだけに集中できるようになり、短い時間で着替えができるようになった。

今後の課題

対象児童の着替えについては、服やズボンを裏返して脱いでしまうため、袖や裾を引っ張って裏返さずに服を脱ぐことができるようになることが今後の課題であり、今回と同様にアニメーション動画等で指導していきたい。

本研究においては、視覚的な支援が有効とされる知的障害のある自閉症児にアニメーション動画による指導が効果的であることが示された。しかしながら、アニメーション動画の中の各スライドの内容においては、多くの指導上の工夫が必要であることもわかった。例えば、対象児童にとっては背景が不要な刺激であったり、自分の顔ではなく好きなアニメのキャラクターの顔を貼り付けることが注視を促し、より効果的な指導になることも考えられた。つまり、指導する各児童生徒の行動特性を正確にアセスメント（実態把握）し、自立活動等の各授業場面でより効果的に行っていくことが重要であることがわかった。

### 3 ICT を活用した自立活動指導についてのコメント （児童生徒、保護者、教員等の声）

対象児童の保護者からは、本研究の主指導者である学級担任に感謝のコメントをもらった。着替えのときに、対象児童が全裸になることを保護者自身も非常に困っていた。小学部の高学年になって保護者から学級担任に相談もあり、非常に心配していたが、今回の指導で全裸にならずに一人で着替えることができるようになって驚いていた。家庭においては、まだ全裸になることもあり、保護者にとっては他のきょうだいの世話もあり、なかなか対象児童だけに時間をさけないのが現状であった。しかし、保護者から家庭でも少しでも同じような指導を取り入れていきたいとコメントももらった。

本研究の主指導者と同様に、他の2名の学級担任からも今回の ICT を活用したアニメーション動画の有効性について、前向きなコメントがあった。実際に、アニメーション動画を利用して指導を続けていくことによって、対象児童の行動変容があり、一人で素早く着替えることができるようになったことで、ICTの有効性について実感することができた。